

1. 麦類の栽培について

今年の麦類は播種直後から気温が高く、降水量が極端に少ない中で生育しました。二条大麦の莖立期は平年より10日前後早い3月上旬でした。今後の気温は平年並みに推移する見込みですが、出穂期も平年より数日早まりそうです。今後は排水対策や赤かび病防除の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

① 排水対策

登熟期の湿害は根の活性を落とし、粒の充実不足を招きます。

- ・圃場の排水溝の溝さらいをしましょう。
- ・まだ設置していない圃場があれば、周囲に排水溝を掘ります。
- ・排水溝は低く掘り下げて、圃場外の排水路につなぎましょう。

② 赤かび病防除

赤かび病が発生すると麦として出荷できなくなるので、必ず薬剤散布を行います。

- ・二条大麦（ビール麦）

防除適期：穂揃い期7～10日後

ポイント：登熟期間中に雨が多い場合は、1回目の7～10日後に2回目の散布をしましょう。

- ・小麦、はだか麦（ビューファイバー）

防除適期：1回目・開花始め（おおむね出穂7日後）、2回目・1回目の20日後

ポイント：登熟期間中に雨が多い場合は、3回目の散布を行います。

【代表的な赤かび病防除薬剤】

農薬名	二条大麦（ビール麦）		小麦	
	使用時期	使用回数	使用時期	使用回数
ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	収穫7日前まで	3回以内
シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	収穫7日前まで	2回以内
チルト乳剤25	収穫21日前まで	1回以内	収穫3日前まで	3回以内
トップジンM水和剤	収穫30日前まで	3回以内 （出穂期以降 1回以内）	収穫14日前まで	3回以内 （出穂期以降 2回以内）

※ 薬剤散布を行う場合は、ラベルの表示を確認し、散布してから収穫までの日数（使用時期）や使用回数に十分注意して正しく使用してください。

2. 水稻種子消毒について

未消毒の種子を購入した場合、ばか苗病や苗立枯病等の種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を必ず行いましょう。浸種日数は消毒済み種子（積算温度120～130℃）より1日ほど短く（積算温度100～120℃）します。

【薬剤を使用しない温湯消毒法】

乾燥した種籾を、60℃の温湯に10分間（または58℃の温湯に15分間）浸漬し、処理後直ちに流水で冷やす。発芽力低下を防ぐため、専用の温湯処理機を利用する。

（裏面あり）

【種子消毒薬剤の例】

農薬名	適用病害虫	希釈倍数	使用方法	使用回数
テクリードCフロアブル	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病(リゾーフス菌)、苗立枯病(トリコゲルマ菌)	200 倍	24 時間種子浸漬	1 回
スミチオン乳剤	イネシンガレセンチュウ	1000 倍	6~72 時間浸漬	1 回

3. 稲こうじ病の防除について

イネ稲こうじ病は籾に暗緑色の病粒を形成する病害で、この菌による被害粒の混入が確認されると農産物検査で規格外になってしまいます。原因菌は土壌で越冬するため、一度発生した圃場では防除を行いましょ。また、多肥栽培で発生が助長されるので、適正施肥を行いましょ。

① 移植期の防除薬剤（ともにシメコナゾールを含む）

農薬名	使用量	使用時期	使用回数
トリプルキック箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5% ¹) 1箱当り50g	移植3日前~移植当日	1回
モンガリット粒剤	3~4kg/10a	収穫45日前まで	2回以内

- ※シメコナゾールを含む農薬の総使用回数は2回以内（移植前は1回以内）であることに注意。
- ※トリプルキック箱粒剤はウンカ類に登録がないので、別途イネ縞葉枯れ病対策を検討する。
- ※モンガリット粒剤を移植期に使用する場合、移植直後~10日が処理適期である。

② 出穂期前の防除薬剤

農薬名	希釈倍数、使用量	使用時期	使用回数
ドイツボルドーA	2000倍、60~150% ¹ /10a	出穂10日前まで	—
モンガリット粒剤	3~4kg/10a	収穫45日前まで	2回以内

- ※適期を逃すと効果が著しく落ちるため、ドイツボルドーA（銅剤）は出穂20~10日前、モンガリット粒剤（シメコナゾール剤）は出穂21~14日前に散布する（幼穂が1~5cmになっていることを確認して散布）。
- ※シメコナゾールを含む農薬の総使用回数は2回以内（移植前は1回以内）なので、移植期に防除した場合回数に注意する。
- ※出穂期のいもち病防除と同時に防除できないため注意。

<参考技術としての高密度播種>

育苗数を減らし移植作業を省力化するため育苗あたりの籾の量を増やす高密度播種に取り組む場合、以下のような点に注意しましょ。

- ① 育苗日数を短くする
高密度播種をすると、ムレ苗や徒長、肥料切れが発生しやすくなります。苗質低下を防ぐため、育苗期間は長くても20日程度にしましょ。
- ② 植付け本数
慣行と田植機の設定を変えずに移植すると、1株あたりの植付け本数が増え過繁茂になり、細茎が増えてしましょ。1株3~5本の適正な植付け本数になるよう、田植機の横送り回数を増やし、かき取り量を小さく調節しましょ。